

さみしい夜の句会報 第84号 (2022. 9. 25-2022. 10. 2)

- ◆ 参加者しまねこくん、あゆりのはなこ、宮坂栞哲、休庵、白水
ま衣、さー、ぼこぼ、susyu、涼閑、風池陽一、Irumitoppa、突破、池
田吉輝、西脇祥貴、花野玖、澱粉、菊池洋勝、天やん、コネコノビツ
チ、海馬、しろとも、石原とつき、まつりべきん、太代祐一、桜秘密
子、おかもとかも、小沢史、石川駿、星野響、しもじょう、木野清瀬、
ころん、ころん、達毘古、最中妙、西沢葉火、元さん、枡川零十
^{Reito/Masukawa}、抹茶金魚、雷(らい)、蔭一郎、水の眠り、夜間戦
闘(れん)、雲上晴也、弋定住佳、日月星香、馬勝、桔梗糺、生・存
MIVA、田藤ひとみ、雛子、思雨(スイ)、岡村知昭、さぶきち、ちゅん
すけ、森内詩紋、みや、hajime、冬憑(ふゆつき)、輪井ゆう、たろり
すむ、空瓶、鷺沼くぬぎ、さこ(砂狐)、東(ことう)、なめた、糸瓜囃子、
鴨川ねぎ、Tomo、kubotahiroko、灰色ニボシ、和泉明月子、木之下恵
美、haruno、踏子、HAKUBIKI、千春、mgwort、(はやし)雨子不眠症
の猫、睦月ヨシ、棚場田敦也、風花(かさはな)、橘月子、徳道かつ
み、ペ、やぶ、俳句むすかしい、Yoko Sakaki、ササキリ、ユウイチ、
河上類、yu_saki、名犬、ぼん、L B&A、麦野結香、crazy lover、楢
崎進弘、Akkey、月波与生(九七名)

◆ 7・7詩、5・7・5詩

芦ノ湖は素足の猫の中にある 白水ま衣
今ちよつと隠喩なので欠席します 白水ま衣
夜ハフェのこれが正しいにをはだ 白水ま衣
本名で呼べば出れなくなる花野 蔭一郎
蛇穴に入るとき胸に十字切る 蔭一郎
骨になる前にすり込む赤林檎 西脇祥貴
手を取ってギロチンおじさんになろう 西脇祥貴

夜戦ぐレディオヘッドのキーリング 西脇祥貴
丁重に草冠を辞退する 白水ま衣
無添加のアルゼンチンを買ってくる 岡村知昭
対岸の泡立草の呼吸音 蔭一郎
竜胆が限界点を超える夜 千春
左眼がやめようとするのを止める 岡村知昭
メロンパン売りのアルマジロの涙 岡村知昭
信楽焼になるまで焼いておく恥骨 海馬
雨ふって The 固まる、で The End 海馬
ため息がきれいにみえるシャボン玉 Kubotahiroko
くれぐれも沈む海ではないことを 西沢葉火
主義のない杵と臼ならあるけれど 西脇祥貴
モザイクが第二関節まできてる おかもとかも
ホームラン性のブーケが切れてゆく たろりずむ
ト長調のペンギンしかいなかった 白水ま衣
あんパンの霊に憑かれる山手線 岡村知昭
八代亜紀俺の中では冬の季語 馬勝
あとひとり九月を終わらせるために 蔭一郎
とつても土偶でときどきバレる 太代祐一
交代の合図を胸に光らせる 太代祐一
赤の他人青の他人黄の他人 白水ま衣
写真館の青空が勘違いしてる 抹茶金魚
美人でもブスでもいきみの猫なら コネコノビッチ
夜の案山子昼の案山子とすれ違ふ しまねこくん
小腸と同じ長さの夜を下る しまねこくん
恋人の名を持つお菓子菊日和 花野玖
赤とんぼ抜けて高速バスぐるり ぼっぱ
蟋蟀の脚に付かない天ぷら粉 しまねこくん
青北風や男女入れ替ふ露天風呂 菊池洋勝
水澄んで月がなかなか踊らない 小沢史
月光で廻る屋上観覧車 星野響

ラフランスくびれに指を這わせたし 水の眠り

生活が今日の秋思を礙げる あ

銀杏を踏んで転んで馬鹿を見る ゆりのはなこ
空間に猫の形の穴が開く 宮坂変哲

せつかくの休み台無しキレルハゲ 休庵

チューバソロ雨男達躍り出る さー

過去消され筋子は膳で輝きぬ syusyū

ひとりごと言つて自分を慰める 涼閑

去年今年紅に白にと運動会 風池陽一

つんつんと胸つんつんと秋の金魚 Inuitoppa

ツバメ去り寂しくなるねくもり空 流天

窓向こう誰かの戸口灯ったか 澱粉

星月夜解放される我が戦線 天やん

猪木はいた白鳥の歌 石原とつき

冷凍のツインテールはお味噌汁 まつりぺきん

通学路ダイヤモンドの意気地なし まつりぺきん

秋の耳くすぐつてる吾亦紅 石川聡

抹茶だともう抹茶だと信じます しもじょう

アペリアを浴びて九月があと二秒 木野清瀬

虹消えて雨後に列なす彼岸花 ころんころん

清明や邪魔する奴が愛と言う 達毘古

眩しさが寂しい音する白い彼岸花 雷

母のお腹に置いてきたリズム感 しろとも

なりはひも袖も迷子の九月尽 雲上晴也

臭いもの蓋に書かれたキレイゴト 弑定住佳

氣の使い過ぎと心配までされる 日月星香

うたた寝してる秋の昼のテレビ前 黎明

風は秋はあくまでも案山子 石原とつき

オムライスのレットテル今日は外します MIVA

白内障手術したなら見え過ぎる？ 円藤ひとみ

見えすぎて生きづらくなるコンタクト 雛子

ブサカワ魚浅瀬に遊ぶ秋うらら 思雨

練色の透き影茗荷の花二つ 森内詩紋

貝割菜眠むれたかいもうすぐ朝日 *rajinii*

明けぬ夜は無いと言う君罪深し 冬憑

足の裏だけ気づいていた引潮 輪井ゆう

引き出しの二段目に隠した秘密 空瓶

愛しあう夜の月だけ消していく 東ころ

おもちゃとか秋の星とかラッコとか 鷺沼くぬぎ

誰が為に泡と消えるか花車 なゆた

でもきみにいいことばかりの夜が来る 糸瓜曜子

血管と血管を結び融け合おう 鴨川ねぎ

ひやひやとパチンコ店を出るをんな *Tomo*

かみさまがぼくのことだけわすれたの 灰色ニボシ

花散らす人変わりても金木犀 和泉明月子

すずき路秋の河原は彼岸越え 木之下恵美

良夜なら読書も整理出来るのに 黎明

青北風に吹かれて独り吾は宙 *haruko*

マス割りの 写真撮って 穴だけだ *HAKIBIKI*

葦原の水面差す陽は霧りをり *mugwort*

高い空差し出す指にトンボよ止まれ こぼやし南子

まだ若い背筋が二倍伸びている 睦月ヨシ

秋の夜の茶粥の香り終に消え 森内詩紋

鯨尺呑んでキノキオの鼻を測る *さし*

秋薔薇(あきそうび)紅く散るのは誰のため 風花

と話したことは忘れてほしいのよ 橘月子

詰められて過去に唾吐くバケラツタ かつみ

千鳥足ゆく影絵の街よ静か *ぺ*
マニユアルにあなたのことが書いてある 月波与生

◆ 7・7、5・7・5以外の短詩

この後は神さまたちが集まってどうも絶滅するらしいです
蔭一郎

痛い痛い飛んでいけ何が痛いのかなんてどうでもいい
か しるとも

あなたもどうぞどうでもいいの消えてよねあたまの中に住み着
かないで 校秘密子

「どこまでも」で始まる歌が好きだった今となっては も
う歌えない 最中妙

愛と言う言葉を使い夫婦なり恨み辛みの日々生き得る
元さん

宿題も塾もあるのにしつこく香るキンモクセイは 夜間戦
闘(れん)

苦しみや今日食べ過ぎたドーナツの数とか全部秘密にでき
ない 生・存

謙虚にと謙虚にしろと育てられ一番自分に謙虚になった
さぶさち

なぞなぞは解かなくていい糖衣錠 ちゅんすけ
流れてくわたしが妙に速すぎて句読点を打ちたくなる夜

みや
暗がりに揺れるランプが照らしてるしたためた文私のこころ

ろ 柘川零卜

「先生」と偽り三ヶ月たった明日の夜に校長を拉致 蔭一
郎

◆ 詩

人の中にいるときほど

ひとりぼっちなことはない

コンサートで映画館で
多くの人に囲まれながら
みんなと同じ方向を見て
黙っているのは　なんて
心地いいひとりぼっちだろう
あれこれと口うるさい
私自身からもはなれて
みんなと一緒に　黙っている
ひとりぼっちの一員のわたし（踏子）

会ってみたい人がいる
いつも全天にやさしい紺色の
ハンカチーフをかけているだれか
そしてその柔らかなシルクに
ぽつぽつと小さい穴を
こっそりと空けておいてくれた
だれかにも：（棚場田敦也）

◆作品評から

蟋蟀の脚に付かない天ぷら粉　しまねこくん
くこオロギの粹のよさげな天ぷら？（やぶ）俳句むずかし
い）

マニユアルにあなたのことが書いてある　月波与生
く情報の漏洩漏れなど現代社会が風刺されていてこれぞ
川柳だと思いました。（ゆりのはな）

あまりにも詩であるために避けきれない　穂瀬りな
く「あまりにも詩である」のは避けきれないものだ。日

常、といえは平凡だが運命の繰り返しを日常とも言う。10月2日、日曜日、ぼくたちは「あまりにも詩である」中にいる。(月波与生)

オルガンも工事現場で泣いている まつりぺきん

「オルガンとすすきになって殴りあう 石部明」があるのでオルガンは使いにくい言葉だが、ではすすきはどうかというとすすきはそんなに抵抗がない。オルガンの不思議。(月波与生)

野分まで金平糖の色揃え かなす

「金平糖は何色あるのでしょうか。台風はすぐそこに迫っているのだけど足りない色がある(ような気がする)そんな落ち着かない日。(月波与生)」

どこまでも」で始まる歌が好きだった今となってはもう歌えない 最中妙

「好きです (森内詩紋)」

メロンパン売りのアルマジロの涙 岡村知昭

「メロンパン売りがやって来た。ワゴンを引くのはアルマジロ。メロンパンはアルマジロのベビーだと思いついて。早く売ってしまいたい。ワゴンが空になるまで。せめてメロンパンたちが目を覚ましてアルマジロの姿になる前に。アルマジロが流す涙もまた、丸まって。(西沢葉火)」

手を取ってギロチンおじさんになろう 西脇祥貴

「昨日ギロチン句提出したところ! (Yoko Sakaki)」

今ちよつと隠喩なので欠席します 白水ま衣

「これ、結構すごいですね。(ササキリユウイチ)」

交代の合図を胸に光らせる 太代祐一

〜良 (河上類)

野葡萄に一つの漏れも無く偽名 しまねこくん

〜雅号は偽名が多いし Twitter もほとんどが偽名。いつの間にか偽名が本名よりしつかりした人格を持っている社会。まだ人の手が触れられてない象徴としての野葡萄がいい。

(月波与生)

烏賊としてやっつけていけるか考える 岩瀬百

〜句会では「烏賊は動くだろう、蛸でもいいだろう」と言い出す野暮がいる。かというとい力刺しで一杯やっつけて楽しく帰る人もいる。句会は面白い。(月波与生)

雨ふって The 固まる、で The End 海馬

〜これ傑作ですね！ (yu_seki)

小腸と同じ長さの夜を下る しまねこくん

〜あと盲腸も下る (名犬 ぼち)

白内障手術したなら見え過ぎる？ 円藤ひとみ

〜そんなに変わるのかな？? そうなれば良いよね (L EGA)

冷凍のツインテールはお味噌汁 まつりぺきん

〜もはや誰も止めることが出来ないまつりぺきんさん。この句も意味の彼岸を切り裂くように詠まれています。読んでいてなぜ快感になるのか。

ツインテールというと、「生ハムと焼きうどん」という、ふたり組の地下アイドルを思い出します。『たまごかけごはん』という名曲がありました。(蔭一郎)

エルキュール・ポワロはとても句跨り 白水ま衣
　　〜クリステイが生み出した名探偵エルキュール・ポワロ
を「句跨り」と書いたのは本句が初めてではないだろうか。
一発芸みたいなもので今後はすべて二番煎じになる。(月波
与生)

こほろぎのねんぶつ りりり りりりりり 森内詩紋

　　〜今後こほろぎの声を聞くと「念仏だ」とこの句を思い
出してしまいうんぱくがあります。(月波与生)

「先生」と偽り三ヶ月たった明日の夜に校長を拉致 蔭一
郎

　　〜いい感じに不穩。危うし管理職！

めんどくさいから校長印は副校長の机に出してつてくれ
(なお、校長の返還は求めない) (森内詩紋)

生活が今日の秋思を礙げる あ

　　〜石偏に疑うでさまたげると読むんですね。面白いです。

(糸瓜曜子)

夜パフェのこれが正しいにをはだ 白水ま衣

　　〜真夜中にあなたが選ぶいくつもの、すべてのことを。パ
ルフエと呼ぼう (麦野結香)

ラフランスくびれに指を這わせたし 水の眠り

　　〜ラ・フランスの形と香りについつい手が出てしまいま
すね。エロティックな雰囲気です。(Crazy Lover)

夜戦ぐレディオヘッドのキーリング 西脇祥貴

　　〜夜戦ぐが良いのだけれどそよぐに何でこんな漢字を当

てたのだろうと思います。ルンガ沖夜戦を連想してしまいうるようになります。(檜崎進弘)

蛇穴に入るとき胸に十字切る 蔭一郎

〜奈良に蛇穴と書いて「さなぎ」と読む地名があります。修行の若者と村娘の悲恋のようないわれがあったと思うのですが、胸に十字を切るところに、そのニュアンスを感じました。(まつりぺきん)

通学路ダイヤモンドの意気地なし まつりぺきん

〜読んでいて、ここまでわからないと快感になってくる。まつりぺきんさんは攝津幸彦を越えてしまったのだろうか？いちおう「ダイヤモンド」を、道路に白線で描かれている菱形のアレかなとか考えるが「意気地なし」だったなあ。例えばこの句をダイヤで切ってみる。

通学路ダイヤ モンドの意気地なし

このダイヤは時刻表。通学路の時刻表？

モンドは、モンド映画とかモンドミュージックのモンド。でも意気地なしか。ダメだ。意味とかどうでもいい。とにかくこの句は読んでいて快感。(蔭一郎)

秋薔薇(あきそうび)紅く散るのは誰のため 風花

〜薔薇は、同じ薔薇の木でも、春より、秋に咲く方が濃い色になるんですね。エネルギーをためて咲く春より、返り咲きの秋の方が、薔薇本来の色がでるそうなので、背景が目につかび感傷的になりましたー (Akkey)